

増岡組の100年



「幸せの形」をもとめて

人は、これまで幾つの心象や事象を建造物に換えてきたのでしょうか。
建造物という表現が生まれる前から、人間は「立体的な何か」、時には構造を、或いは細かな意匠を創造してきました。
その創造力は人々の感性や生理から生まれた深い叡智でした。そして、それが「技」となり、そして現在私達が知る「技術」となりました。
様々な時代に様々な目的がありましたが、それらを生み出した知性が求め続けていたもののあらまは「幸せの形」というものではないでしょうか。
人が建造物を造り始めて以来積み重ねられた膨大な時間の重みから考えれば、僅か100年という期間ですが、
その間、私達増岡組はより豊かな環境の創造に力を注いできました。
それは、取りも直さず、先達の技術と叡智に触れながら、新しい「幸せの形」を模索し続けて来た100年でした。



呉市役所・呉市公民館



広島市民球場



呉中央棧橋ターミナル・大和ミュージアム



入船山記念館 (旧呉鎮守府司令長官官舎)







吳市美術館前道路



央道湖 (白鴻環境護岸)



安芸灘大橋取り付け道路



西広島バイパス佐方改良



広島ゴルフ倶楽部 鈴ヶ峰コース



新座病院



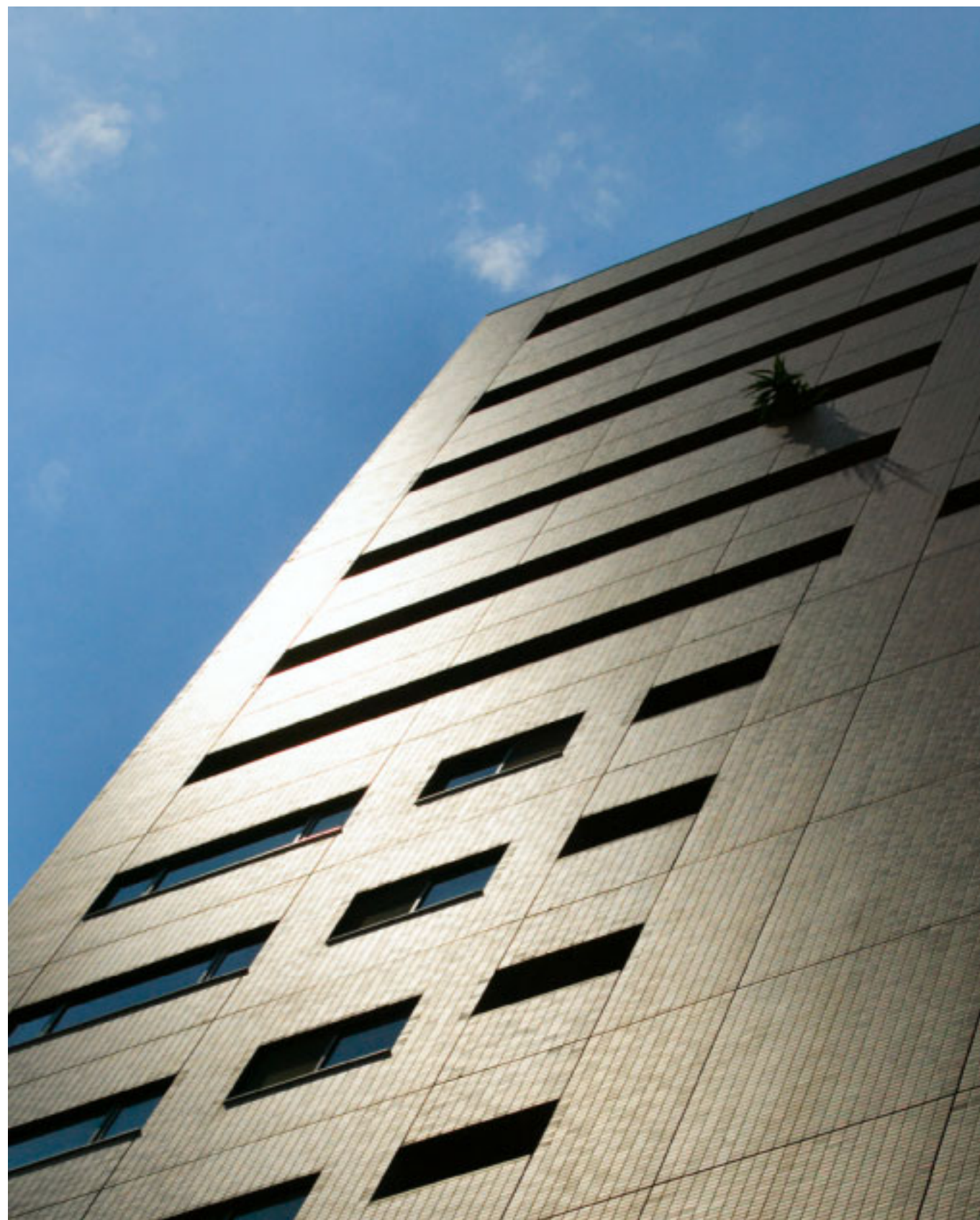
三郷中央総合病院

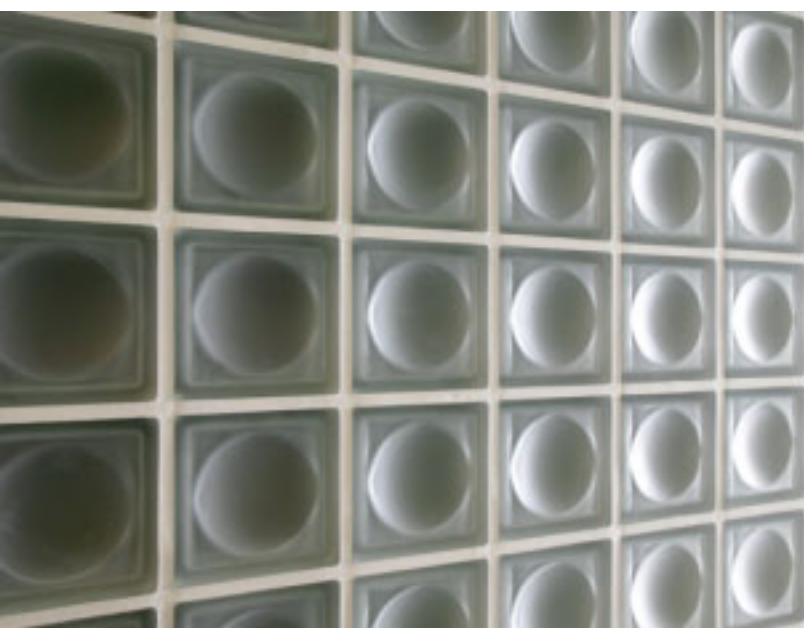


お花茶屋ロイヤルケアセンター



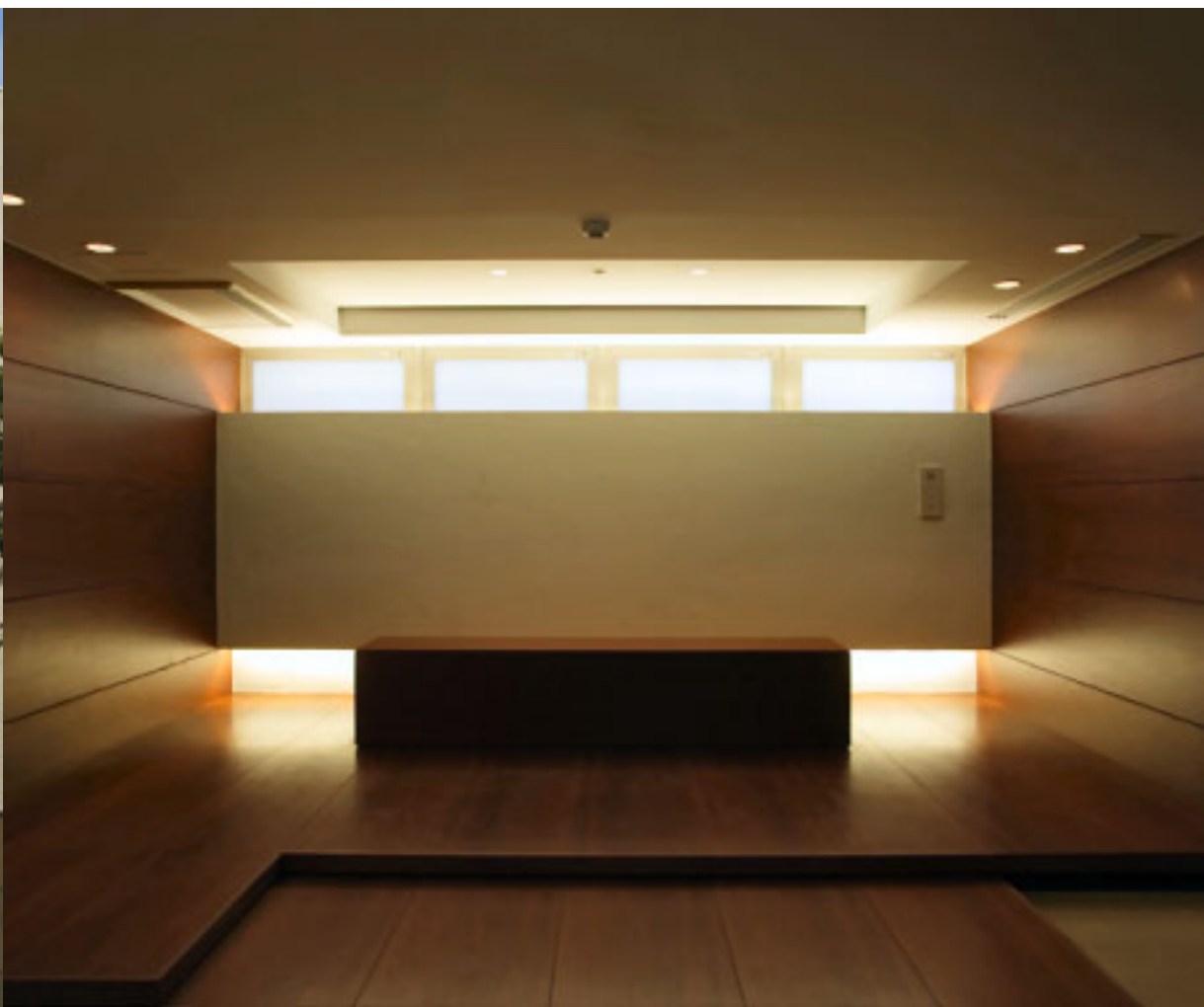
J'cityタワー呉





Arte哲学堂







プラウド立川新築工事
撮影日：2007年9月20日

鉄鋼ビル耐震補強工事
撮影日2007年9月21日





梶矢トンネル工事
撮影日：2007年9月26日



斐伊川放水路高松地区水路工事
2007年9月26日



三川町ビル新築工事
撮影日：2007年9月25日



鉄鋼ビルディング



鉄鋼ビルディング

CONTENTS

代表挨拶

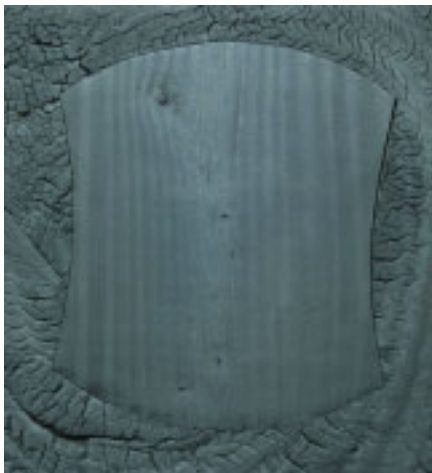
歴代代表略歴

増岡組年表

100年の歩み

増岡組 建築土木100年の記録

会社概要・事業所一覧・関連各社



弊社は、明治21年に広島県呉市で創立した増岡商店を前身とし、明治41年に建設業を開始いたしました。

この度、創業100周年を迎えることが出来ましたのは、一重に皆様方の御指導の賜物と、衷心より厚く御礼申し上げます。

弊社の歴史は、増岡商店が海軍へ商品を納入する御用商人としての経験を活かし、建設業に進出したところから始まります。以来、建設産業に従事する者として、様々な時代を経ながら

技術を積み重ね、より良い環境の創造に努めて参りました。

現在、我国は本格的な少子高齢化社会に入り、時代を構成する人々が暮し易い、安全で新しい環境造りが求められています。弊社の歴史は、未だ100年という期間ですが、私共は伝統の素晴らしさについて、過去からの決まりごとを墨守することではなく、多くの経験との比較の上に立脚する改善の積み重ねにあると信じております。

建設産業全体が大きく変貌している現在、私共は先達の築いてきた信用と技術を重んじつつ、日々革新に挑戦し、建設業に携る者として、人が生活を行う上で、あるべき環境を追求して参りたいと思います。

弊社の基本方針は、「建築・土木に関わる領域において、常に創意と社会的倫理観をもって新たな問題の発見・解決を行い、お客様のニーズにより誠実に対応する」といたしております。

時代を超えて建設産業に期待されてきたことは

「幸せの形」の実現ではないだろうかと考え、この技術組織がその為に創造してきた叡智の集積に倣い、より誠実で機能的な技術とサービスの提供を心掛け、次の時代に向かって行く所存でございます。

何卒、今後とも一層の御指導、御愛顧を賜りますよう、御願い申し上げます。

株式会社増岡組 代表取締役社長 増岡真一

歴代社長略歴



増岡登作
ますおかとうさく

明治24年 広島県呉市に誕生
明治41年 増岡商店に改組
昭和20年 戦災復興、兵器処理、駐留軍工事に従事
昭和21年 広島トロール漁業株式会社社長に就任
西部砂利株式会社取締役就任
増岡商事株式会社に改組改名、社長に就任
昭和22年 国際倉庫株式会社創設、社長に就任
昭和23年 株式会社増岡組に改組改名、社長に就任
中国砂利株式会社に改組改名、社長に就任
昭和24年 株式会社鉄鋼ビルディング創立、社長に就任
昭和32年 小糸電機株式会社取締役に就任
昭和37年 株式会社小糸製作所相談役に就任
昭和44年10月14日 逝去

叙勲・褒章

昭和27年 呉市産業功労者に表彰
昭和35年 紺綬章受賞
昭和38年 黄綬章受賞
昭和44年 勲四等瑞褒宝章受賞

民間団体歴

昭和15年 広島県土木工業統制組合理事に就任
昭和18年 日本土木建築統制組合中央委員に就任
昭和21年 呉土建業者協会会長に就任
呉商工会議所会頭に就任
昭和22年 広島県商工政治協議会委員長に就任
日本建設工業会評議員に就任
日本建設工業会広島県支部理事に就任
昭和23年 呉消防協会会長に就任



増岡重昂
ますおかしげたか

昭和2年 広島県呉市に誕生
昭和26年 株式会社増岡組に入社
中国砂利株式会社取締役に就任
株式会社鉄鋼ビルディング取締役に就任
昭和27年 株式会社増岡組東京支店次長に就任
株式会社アシェ取締役に就任
東京通信倉庫株式会社取締役に就任
昭和28年 株式会社増岡組取締役に就任
昭和29年 株式会社増岡組常務取締役に就任
昭和33年 福岡製紙株式会社取締役社長に就任
昭和35年 福岡製紙株式会社取締役に就任
昭和42年 株式会社増岡組代表取締役に就任
昭和44年 株式会社増岡組代表取締役社長に就任
国際交易開発株式会社取締役に就任
株式会社鉄鋼ビルディング取締役副社長に就任
昭和52年 株式会社増岡組取締役会長に就任
昭和53年 株式会社鉄鋼ビルディング代表取締役副社長に就任
昭和56年 株式会社増岡組代表取締役会長に就任
昭和61年 株式会社鉄鋼ビルディング代表取締役社長に就任
平成10年2月27日 逝去

民間団体歴

昭和32年 社団法人東京青年会議所理事に就任
昭和51年 社団法人日本建設業経営協会理事に就任

歴代社長略歴



増岡正剛
ますおかせいこう

昭和7年	広島県呉市に誕生
昭和30年	株式会社増岡組に入社
昭和31年	株式会社鉄鋼ビルディング取締役に就任 株式会社増岡組取締役に就任
昭和35年	株式会社増岡組常務取締役に就任
昭和42年	株式会社増岡組代表取締役に就任
昭和44年	増岡商事株式会社取締役に就任 株式会社鉄鋼ビルディング常務取締役に就任
昭和48年	株式会社増岡組代表取締役副社長に就任 株式会社鉄鋼ビルディング専務取締役に就任
昭和51年	増岡商事株式会社代表取締役社長に就任
昭和52年	中国砂利株式会社取締役に就任 株式会社増岡組代表取締役社長に就任 増岡商事株式会社取締役に就任
昭和53年	増岡商事株式会社代表取締役社長に就任
昭和57年	株式会社鉄鋼ビルディング代表取締役副社長に就任
昭和63年	ダック株式会社代表取締役社長に就任 株式会社ビル管財代表取締役社長に就任 中国物産株式会社監査役に就任
平成6年	ダック株式会社代表取締役会長に就任
平成8年10月9日	逝去

叙勲・褒章

昭和63年 建設大臣表彰

平成2年 黄綬章受賞

民間団体歴

昭和43年 社団法人広島県建設工業協会理事に就任
建設業労働災害防止協会

広島県支部 呉分会会長に就任

昭和48年 社団法人呉建設工業協同組合理事に就任

昭和53年 社団法人日本建設業経営協会理事に就任

昭和53年 社団法人東京建設業協会参与に就任

昭和57年 社団法人呉建設工業協会会長に就任



隅田義彦
すみだよしひこ

大正8年 広島県広島市に誕生
昭和17年 広島商工会議所に入所
昭和20年 兵役
復員復職、広島商工会議所調査課長、
業務課長等を歴任

昭和37年	広島商工会議所事務局長に就任
昭和43年	広島商工会議所理事事務局長に就任
昭和48年	株式会社増岡組常務取締役広島支店長に就任
昭和52年	株式会社増岡組専務取締役広島支店長に就任
昭和59年	株式会社増岡組取締役副社長に就任
平成5年	株式会社増岡組代表取締役副社長に就任
平成8年	株式会社増岡組代表取締役社長に就任
平成12年	株式会社増岡組取締役相談役に就任
平成18年3月25日	逝去

増岡組年表

1888	明治21年 広島県呉市に増岡商店創設。		1949	昭和24年 広島支店開設。 第1鉄鋼ビル建設工事着工。		1975	昭和50年 東広島営業所開設。	1993	平成5年 松江支店開設。
1906	明治39年 船具類の販売に加えて機械類 の販売、建設業の開始。		1951	昭和26年 福山営業所開設。 第1鉄鋼ビル完成。		1976	昭和51年 名古屋営業所開設。 広島テレビ本社第1期新築工事竣工。	1994	平成6年 徳山営業所開設。
1908	明治41年 増岡登作、増岡商店を改組、 海軍の御用商人として活躍。		1954	昭和29年 第2鉄鋼ビル完成。 広島市民球場工事着工。		1977	昭和52年 増岡正剛代表取締役社長に就任。	1995	平成7年 国立呉病院更新工事着工。
1924	大正13年 川砂利利用に着目し採取、開発を事業化。		1955	昭和30年 松山営業所開設。	現場を視察する 初代社長・増岡登作	1978	昭和53年 広島東京海上ビルディング新築工事竣工。 農林省筑波林業試験場新築工事着工。	1996	平成8年 隅田義彦代表取締役社長に就任。
1932	昭和7年 大阪・横須賀・岩国・広島・広に出張所設置。		1960	昭和35年 大阪支店開設。		1981	昭和56年 建築の受注競争激化に伴い、技術開発の推進やTQCによる 競争力の強化計画を打ち出す。	1999	平成11年 ISO9001認証取得。
1935	昭和10年 東京・佐世保に出張所設置。		1961	昭和36年 島根営業所開設。		1982	昭和57年 呉信用金庫事務センター新築工事竣工 帝人愛媛工場テロンF Y C工事竣工。	2000	平成12年 増岡真一代表取締役社長に就任。
1936	昭和11年 呉下士官集会場（現自衛隊集会場）工事着工。		1962	昭和37年 広島銀行本店建設工事着工。		1983	昭和58年 帝人岐阜工場1期～4期工事着工。	2001	平成13年 福山支店開設。 既存地下再利用によるカウンターウェイト・バランス工法の実施。
1941	昭和16年 長崎県・大村航空隊滑走路工事、 茨城県・土浦海軍病院本館工事着工。		1963	昭和38年 横浜営業所開設。		1985	昭和60年 広島市民球場施設整備1期、2期工事着工。	2003	平成15年 益田営業所開設。 ライフサイクルコスト算出システム（Masuters Mouse）を開発。
1943	昭和18年 日本土木建築統制組合中央会創会、 戦時協力体制となる。		1964	昭和39年 日商ビル（日鉄日本橋ビル）建設工事着工。		1988	昭和63年 資本金10億円へ増資。 創業80周年（グループ創設100周年）を迎える。 呉そごう新築工事着工。 小川運輸有明倉庫新築工事着工。 上記工事日本最大級のアンボンド・フラットスラブ工法採用。	2005	平成17年 環境技術研究所（エコラボ）を広島県呉市で事業開始。
1945	昭和20年 連合軍郵便局新築工事着工、軍従属会社から、 戦後の平和産業へと転換。 呉市に於いて呉復興建設組合を創設。 いち早く、戦後復興に立ち上がる。		1968	昭和43年 京都営業所開設。		1989	平成元年 広島国際平和文化会館新築工事着工。	2006	平成18年 三次営業所開設。 建物のコンバージョン（用途変更）の事業開始。 地域環境学習事業開始。
1946	昭和21年 増岡登作、呉商工会議所会頭に就任。 兵器解体処理工場工事着工。		1969	昭和44年 増岡重昂代表取締役社長に就任。		1990	平成2年 平成6年に行われる第12回アジア大会に向け、広島広域公園 陸上競技場、及び広島県立総合体育館他関連工事を着工。 呉阪急ホテル新築工事着工。	2007	平成19年 株式会社増岡マテリアルズ設立。 株式会社増岡組リノベーション設立。
1947	昭和22年 東京支店開設計画が決定される。 鉄鋼ビルプランが打ち出された。		1971	昭和46年 資本金5億円に増資。		1991	平成3年 国宝厳島神社災害復旧工事着工。	2008	平成20年 創業100周年を迎える。
1948	昭和23年 株式会社増岡組に改組改名。 資本金1,000万円でスタート。 帝人岩国工場スフ紡績工場新設工事着工。 これより帝人の施工部門を担当する。		1973	昭和48年 ローコストで高品質な共同住宅、 マスオカホームズの開発及び販売開始。					
			1974	昭和49年 東京に本社移転。 帝人夙川ビューハイツ新築工事竣工。					

100年の歩み



産業奨励館 (大正4年竣工)



相生橋 (昭和9年完成)

呉 (明治19年ごろ)



呉市・広島市と増岡組

瀬戸内海に臨む広島県呉市。風光明媚な土地として知られるこの街は、増岡グループの故郷です。明治21年、増岡久吉がこの地に「増岡商店」を創立し、明治41年に増岡登作が改組。今日の増岡グループ発展の基礎を築きました。増岡組発祥の地であり、歴代社長が生まれ育った呉。そして、政治・経済・文教・交通の中心都市であり、増岡組と深い縁のある広島。両都市の歴史は、増岡組の歴史を語るうえで欠かせません。

明治22年7月1日に呉鎮守府が開庁されると、呉には軍人や戦艦が配備され、軍港としての性格を強めていきました。海軍へ商品を納品する御用商人だった増岡商店は、やがて増岡登作持ち前の進取の気性とたゆまぬ努力によって、軍事関係の建設事業にも進出します。

大正13年には第一次世界大戦が勃発し、日本も参戦。呉軍港からも戦艦が出動しました。増岡商店は、建設事業に不可欠な川砂利に着目し、事業化。昭和に入ってから、呉市の海軍関係工事だけではなく、岩国、霞ヶ浦等全国で、そして海外に於いても飛行場滑走路をはじめ、数々の軍施設の工事を請け負いました。それを可能にしたのは、増岡登作に対する軍の絶大な信頼と、増岡商店の業績に対する高い評価があったからだと言えます。

軍備拡張と軍縮、産業の発達と不況、デモクラシーと文化の発展など、戦乱による急激な時代の変化の波は、日本中に押し寄せました。軍港都市・呉や軍事拠点でもあった広島は、まさにその渦中。昭和6年頃まで、呉は軍縮と不況によって苦しい状況に置かれていました。同年の満州事変以後は一時的に、軍港景気に沸いたこともありましたが、空襲や爆撃を受け、ヒロシマを世界に知らしめた原爆投下で、想像を絶する事態に陥ります。そしてかつての軍港都市は占領軍にとってかわられ、昭和20年代前半の呉は、最も混乱を極めます。

時代の要請でもあった軍関係の仕事を中心として来たため、増岡商店は苦難に直面した時期もありました。しかし、呉の戦後復興にいち早く立ち上がり、全社をあげての努力と団結によって会社を再興。昭和21年、増岡登作は呉商工会議所会頭に就任しました。同年8月に増岡商店納品部が増岡商事株式会社へ、昭和23年1月に同工事部が株式会社増岡組へ、同年11月に同砂利部が中国砂利株式会社へと改組改名。次代へ向けて新たなスタートを切りました。

戦後、広島市は平和都市として再生し、呉市も戦前の技術を生かし、変貌を遂げ発展しました。その様な時代、増岡組は地域の社会資本整備と共に、基幹産業を始めとする様々な建設設備投資に携り、より豊かな環境の創造に努めるほか、地域の災害にも対応し呉・広島に根差した総合建設業として育ちました。国宝厳島神社の災害復旧工事に代表される、文化遺産の維持、修復工事にも携り、我国の建築文化を守るという、重大な使命の一翼を担うことが出来ているのも、増岡組に対する地元の厚いご理解をいただいているからにほかなりません。

近年、人が健康に生活出来るよう、自然環境との調和が注目されていますが、増岡組は創業の地呉市に環境技術研究所を開設し、技術研究活動を行う傍ら地域交流会も開催しています。この様な地域との歴史的な関係の中、増岡組では地域の信頼に応えるため、新たに近隣地域に支店や営業所を開設するなど、より肌理の細かいネットワークを構築し、各方面のニーズに応えていきます。

丸の内・八重洲と増岡グループ

東京駅八重洲北口から呉服橋に至る全長200m、延べ66,280m²を有し、一大ビジネスセンターを形成する鉄鋼ビルディング。増岡組を始め、関連各社が同ビル内にオフィスを構えます。戦後間もない昭和24年9月に、株式会社鉄鋼会館を設立し、同ビル建設とともに、東京に進出したことは、その後の増岡グループの発展の契機となりました。終戦直後の荒廃と混乱の中で鉄骨鉄筋造、地上8階・地下2階の当時としては巨大なビル建設計画でしたが、増岡商店創立以来、深い関わりのある関係者の惜しみないご協力のもと、無事完成する事が出来ました。同ビルをめぐる歴史は、現在の東京駅西側の丸の内エリア、東側の八重洲エリアの発展と密接につながっています。

元々東京湾だった丸の内は、天正18年（1590年）、徳川家康が江戸城に入り、城の拡張のための埋め立てで形成されました。江戸城の内堀と外堀に囲まれ、江戸時代には大名屋敷が立ち並んだ地域で、地名は堀で囲まれた内側という意味合いです。明治維新後、官有地となって荒れ野原に変貌した土地を三菱財閥

が買い上げ、街がつくられ、大正12年（1923年）には日本初の複合ビル・丸の内ビルディング（丸ビル）が誕生。やがて官公庁や大企業が軒を連ねる日本の中心地として花開きます。

八重洲という地名は、慶長5年（1600年）、豊後の国に漂着したオランダ船リーフデ号の乗組員ヤン・ヨーステン（日本名：耶揚子）に由来します。家康に重用された彼は、現在の馬場先門付近に宅地を与えられました。その辺りがヤン・ヨーステン河岸と呼ばれ、後に訛って八代州河岸となり、八重洲に転じたと言われます。また、「遠山の金さん」の名裁きの舞台・北町奉行所があったのは、現在の東京駅・八重洲北口近く。この一帯は、歴史的にも由緒ある場所です。

日本の鉄道の中心地・東京駅は大正3年に開設されましたが、当時は東に改札口がなく、日本橋側に行くには大回りをしなくてはなりませんでした。関東大震災の復興が進み、サラリーマン通勤者のニーズも高まり、ついに昭和4年、待望の東口（八重洲口）がオープン。その後の八重洲地区の発展につながります。

第2次世界大戦後、八重洲口の再開発が始まると、めざましい勢いで復興していきます。昭和23年には外濠の埋め立てが完成し、昭和26年7月には真っ先に第一鉄鋼ビルディングが竣工。昭和29年には第二鉄鋼ビルディングが竣工し、裏口的な存在だった八重洲口がにわかに脚光を浴びます。昭和29年には、国際観光会館、鉄道会館が竣工、昭和37年には八重洲口広場拡張、東京オリンピックを目前にした昭和39年10月には、夢の超特急・新幹線が



第一鉄鋼ビルディングと完成したばかりの第二鉄鋼ビルディング
（日本橋上空より／昭和29年3月）

開通します。現在では東北・上越新幹線が乗り入れ、成田エクスプレスも開通。日本列島の中枢として、そして国際社会への表玄関として、確固たる存在を内外にアピールしています。

平成14年の新丸ビルを皮切りに、新しいランドマークが続々と登場し、丸の内エリアは一大商業ゾーンとして著しく発展しました。そして八重洲エリアでも再開発が進み、新しい施設も次々と誕生し、大きく変貌を遂げています。

増岡グループは、戦後鉄鋼ビルディングを通して、丸の内、八重洲の発展とともに歩んできました。今後いっそうの躍進が期待される地域にあって、増岡組もその役割を広げ、次代へ向けて邁進します。

増岡組 建築土木100年の記録

先進を日々創造しつつも、時には過去を反芻することによって眠っていた根源的生命力が喚起されることもあります。
私たち増岡組100年の歴史には、日本の近代史と戦後史の貴重な断片が見えてきます。
その歴史にはその時代を生きた先達たちの「智と汗」が刻まれています。

■設立から第二次世界大戦終戦まで

軍需産業

呉下士官集会所《青山クラブ》

鉄筋コンクリート造3階建

(昭和7年竣工:呉市記録 自社記録は11年/広島県呉市)



大分県佐伯航空隊兵舎

(昭和9年竣工/大分県佐伯市)



呉海軍建築部、呉海軍工廠

兵舎、寄宿舍等

(昭和16年~昭和20年
/広島県呉市)



鹿児島県鹿屋航空滑走路

(昭和16年竣工/鹿児島県)



小松島航空隊

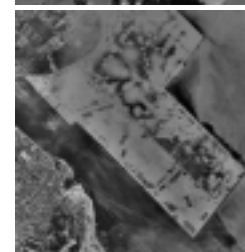
(昭和16年竣工/徳島県)



広島市吉島町の

兵舎新築と滑走路

(昭和20年竣工/広島県)



岩国航空隊滑走路 (昭和19年竣工/山口県岩国市)



■平和産業への道

魚雷その他解体

蛟龍解体 (昭和21、22年)



戦後初の近代的ビジネスセンター建設

当ビルプランは、昭和22年、戦後直後の混迷した経済状況の中で打ち出されました。

江戸城の外堀を戦後の瓦礫で埋め立てたばかりの土地に、当時高層ビルとして考えられていた、地上8階、地下2階のオフィスビルを建設するには、埋立地や河川跡等の工事に関わる熟練労働力を始め、建築技術、機材資材の調達等、必要とする全てのものが不足していました。そのような苦難の中、昭和24年11月の着工から1年9ヶ月の工期を要して、第一鉄鋼ビルが竣工、その後昭和29年に1年の工期で第二鉄鋼ビルも完成、昭和33年の第一鉄鋼ビル増築、同44・45年の第一・第二鉄鋼ビル9階増築と合わせて、建築延面積66,280.04m²のビジネスセンターが完成しました。

第一鉄鋼ビルディング

(昭和26年竣工／東京都)

延床面積26,835.28m²

鉄骨鉄筋コンクリート造

地下2階地上8階建

杭には2300mmの深礎杭工法使用



第二鉄鋼ビルディング

(昭和29年竣工／東京都)

延床面積19,553.95m²

鉄骨鉄筋コンクリート造

地下2階地上8階建



戦後初期のゴルフ場造成

太平洋戦争中一時中止状態にあった広島ゴルフ倶楽部の再興計画は、昭和26年、現コースに候補地が決定され、昭和27年に6ホール、全長1,395ヤードの工事を行いました。我社の地元である広島では、戦後初めての本格的なゴルフ場建設でした。昭和41年より18ホール拡張工事に着手し、全18ホール、全長6,715ヤードの規模になりました。

広島ゴルフ倶楽部鈴ヶ峯コース

(昭和27年、昭和43年竣工／広島県広島市)

昭和27年完成：6ホール、全長1,395ヤード

昭和43年完成：18ホール、全長6,715ヤード



社寺仏閣建築技術

明治21年に広島県呉市の亀山の地が呉鎮守府司令長官官舎用地に決まることにより、現地に移転した亀山神社は、昭和20年7月1日の空爆により焼失しました。その後、戦後荒廃した呉市において、この歴史有る亀山神社は仮社殿により祭祀を続けていましたが、昭和30年に復興を行いました。新築された建物は、鉄筋コンクリート構造による日本伝統建築様式の朱塗り権現造りの社殿で、屋根には銅板葺きを採用しました。

本工事は、我社の社寺建築技術を発展させる礎となりました。

亀山神社

(昭和30年／広島県呉市)

鉄筋コンクリート造





中四国初の本格的野球場建設

1949年に設立された広島カープ球団に対する関心が高まる中、ナイター施設を備えたプロ野球球団のホーム球場建設計画がスタートしました。

外野席盛土を始めとした土工事においては、土の鋤取り、移動、踏み固め、整地に米軍岩国基地整備工事で我が社が購入した、当時最新鋭の国産大型土木重機を使用しました。

このような工事技術を発揮することにより、5ヶ月という非常に短い工期で球場を完成することができました。



広島市民球場
(昭和33年竣工／広島県広島市)

刃口式推進工法によるさや管工法

管路工事において推進工法は、非開削工法のため上部の利用に影響を及ぼさない工法として現在都市部を中心に採用されています。刃口式推進工法は昭和39年頃より以後に全国的に採用されるようになりましたが、当工事では、さかのぼる6年前に「刃口式推進工法によるさや管工法」を行って、推進工事技術の先駆けとなりました。



杉並区和泉町配水管
(昭和33年竣工／東京都水道局) 配水本管敷設工事

バイパス改良工事

高度成長にともなって全国各地でバイパス改良工事が実施されました。バイパス改良工事では道路を始め、跨線橋、橋梁、車道ボックス、トンネル等近代道路として様々な技術を必要とします。当益田バイパス改良工事においては、その一環工事を請け負うことにより、我が社の土木技術の拡充と、当時における新技術の確保ができました。当時のこのような工事により、それまでの道路一簾土木技術は大きく発展しました。



益田バイパス改良工事
(昭和39年竣工／島根県益田市)

世界文化遺産の修復維持工事

飛鳥時代に創建されたと伝わる厳島神社は、平安時代、平清盛によって造営されて以来、現在の姿を確立し、その後幾度か修理、復旧を重ねながらもその様子を現在まで維持しています。

近年宮島を直撃した平成3年9月の台風19号は、国宝に指定されている本社の他、能舞台や大鳥居、五重塔などの重要文化財に大きな被害をもたらしました。

又、同16年7月の台風19号では、本社正面の崩壊の他、左楽房の倒壊、床板破損、屋根の桧皮葺及び各部位塗装の損傷等の被害を受けました。

予てより、摂社豊国神社(千畳閣)の屋根替え工事や、社務所建築工事を担当してきた我が社は、被災後直ぐに復旧工事に取り組みました。国宝や重要文化財の再建は、歴史的な建築手法に基づき、忠実に工事を進めなくてはならず、匠の技と現代の施工技術を調和させると言う大きなテーマがありましたが、文化庁や厳島神社、県の皆様の御指導の下、其々約3年と2年の工期を経て、無事復旧しました。

国宝厳島神社修復、維持工事
(昭和40年～／広島県廿日市市)



海洋土木技術を応用した建築工事

当時我国では、高度経済成長におけるライフスタイルの変化に伴い、全国的に遊休施設へのニーズが高まりました。当工事では、橋梁、波止等で下部構造に使用されている鋼管基礎工法を採用し、その上部に建物を設置しました。海洋土木技術を取り入れて、陸上の建築物を融合させた事により、海の上に浮かぶ珍しい宿泊施設となりました。



能美海上ロッジ
(昭和42年竣工／広島県江田島市)
鉄筋コンクリート造2階建

ローコストシステム規格化集合住宅

昭和40年代、集合住宅の建築が活発化する中、我社では当時のニーズに合わせてローコストで高品質な共同住宅(マスオカホームズ)の開発に取り組み、工業化工法の魁となりました。当システムでは、構造を標準化させる事により、当時珍しい型枠パネル工法を開発し、躯体精度を格段に向上させ、それによりサッシ、ドア、手摺り、階段等の打ち込みを可能としました。内装では、床・壁のパネル化によりクロス、ペンキまで仕上げて完成させたものを入れるノックダウン方式を採用しました。

又、当時では珍しい床上排水式フルユニットバス、システムキッチンを取り入れた他、外断熱を採用し我国では初期の当該技術研究対象建物となりました。



マスオカ・ホームズ
(昭和48年／神奈川県横浜市)
鉄筋コンクリート造5階建

道路改良工事

スクラップアンドビルド一辺倒から、環境への配慮、景観との調和というニーズが生まれ始めた当時、道路工事に於いても様々な手法が考えられました。

当工事で我社は、周囲の景観整備に伴う既存道路の改良工事を担当しました。同工事では、既存の松並木景観を最大限に生かす傍ら、アスファルト及びレンガによる浸透性舗装を実施しました。又、緑地整備を行う他、随所に美術彫刻が配置され、当道路に接する美術館及び旧呉鎮守府司令長官官舎(重要文化財)へのアプローチにもなりました。

当道路は昭和62年に「手づくり郷土賞(ふれあいの並木道)」を受賞し、同年に「日本の道100選」に選ばれました。



幸町・美術館通り 道路改良
(昭和57年竣工／広島県呉市)

新旧基準建築の融合

広島市民球場の2階スタンド増築工事では、観客定員を減少させることなく、狭い観客席をゆとりのある環境にするための工事を行いました。

この増築は、敷地いっぱい建つ旧基準建物の中に昭和56年新耐震基準建物を増築する工事でした。

その為、現在でも全国的に珍しい、同一施設内で、同一基礎の上に双方独立した架構を組み、互いに干渉しない工法を採用しました。

また、工期につきましては、プロ野球のシーズンに影響を出さないように、シーズンオフのみでの工期に対応した工程管理を行いました。



広島市民球場施設整備
(昭和62年竣工／広島県広島市)
32,000席鉄筋コンクリート造

アンボンド・フラットスラブ工法

各種イノベーションが活発に行われた当時、物流システムも変化し、それに対応して都心への供給を確保するための近郊物流倉庫へのニーズも高まりました。当工事では、紙の物流倉庫として平均6t/m²の荷重に対し容量を最大限活用できる建物が要求されました。我社の設計では梁を無くし、使用目的に則した柱間、及び荷重に耐える構造を実現させるため、当時珍しいアンボンド・フラットスラブ工法を採用しました。当建物は、現在でも日本屈指の規模（保管量35,000t）を有する同工法採用の建物です。また、限られた工期に対応する為、大型シャタリング工法、大型フライングショアー工法を開発し、ストック場所不要の高転用工法を行いました。鉄筋に於いては、地中梁及びスラブでユニット工法を採用すると共に、現在の超高層ビルで行われている主筋の機械継手を採用しました。



大昭和製紙東京物流センター小川運輸有明倉庫
(平成2年竣工／東京都) 鉄筋コンクリート造5階建

古民家移築、木造建築技術

当該地区では、古民家移築を初めとして伝統建築物を一同に集め、日本有数の古民家再建ゾーンを計画されました。我社では施工を担当して、古民家を移築した他、これまで培ってきた木造家屋建築技術を駆使して、美術館、資料館の新築工事を完成させました。我社では、このような技術を採用し、歴史的建造物や古民家等に移設あるいは修復することにより、我国特有の建築文化を後世に残し、それぞれの時代の生活様式も伝えていきます。

《下蒲刈地域文化館新築他》



蘭島閣美術館
(平成3年竣工／広島県呉市)
構造: 木造2階建 (新築工事) 本格的な木造建築



あかりの館 (旧吉田邸)
(平成6年竣工／広島県呉市)
木造2階建 (移築工事) 山口県上関町より商家を移築復元



白雪楼 (留春居)
(平成7年竣工／広島県呉市)
木造数寄屋造り二階建 (移築工事) 広島県竹原市より移築

重要文化財保存修理技術

文化財の保存修理工事では、様々な伝統的技法を再現し、時代を超えて現在残る建築物を後世に伝えていきます。

頼家住宅保存修理工事では、日本史を編纂した頼山陽にゆかりのある本建物 (春風館1855年再建・復古館1883年築) を保存するため、一旦全体を解体し、復元しました。随所に当時の工法に合わせた当時の工具を使用した他、旧来からの土壁を再利用して当時のスペックを継承しました。

一方、旧呉鎮守府司令長官官舎保存修理工事では、建物全体の改修を行うとともに、約50年ぶりに「金唐紙」の技法を復活 (平成7年完了工事) させ、建築当初の官舎を復元しました。

「金唐紙」とは、西洋の室内装飾品であった「金唐皮」が高コストであったため、日本独自に開発された壁仕上材です。紙製造工法の発達により和紙が手すきから機械すきになると、「金唐紙」に使える和紙が無くなるとともに「金唐紙」は無くなっていました。

春風館・復古館頼家住宅保存修理
(平成9年竣工／広島県竹原市)
木造2階建 (全解体復元、修復工事)



旧呉鎮守府司令長官官舎保存修理
(平成7年、平成18年竣工／広島県呉市)
木造平屋建 (写真は金唐紙)

既存建物の長寿命化とリノベーション

阪神淡路大震災を契機に耐震性能に関わる技術に関して全国的に要求が高まる中、我社では、自社グループである 鋼ビルにおいて、地震に対する耐震性能の調査、把握と補強に着手しました。

建築延面積66,280m²の大型ビルに対する耐震補強工事で、外付け鉄骨ブレース補強、内部ブレース補強、コンクリート耐震壁増設補強、炭素繊維シート補強を行い、加えて新たに最新技術であるポリエステル織布テープ補強の技術を導入しました。



鉄鋼ビルディング耐震補強工事
(平成13年竣工／東京都) 延床面積66,280.04m²

既存地下再利用によるカウンターウェイト・バランス工法



当技術は、地上階は全て解体する一方で、地下階の旧躯体の外壁、底版を仮設として利用し、建替を行う工法です。この技術では、特に地下水の影響を考慮した浮力管理技術が必要とされています。

当工事は、大阪市道頓堀地区の繁華街の中で施工を行いました。我が国でも希な当技術を採用する事により、コストの縮減、工期の短期化、近隣影響削減を実現しました。完成時期では、日本で初めての技術使用でした。

難波近建ビル

(平成13年竣工／大阪府大阪市)

鉄筋コンクリート造地下2階、地上3階建

ライフサイクルコスト

我が国は、安定成長期を迎え建造物も長寿命化が求められています。

我社では、このニーズに対応するためライフサイクルコスト(建物の将来にわたる修繕、管理、運用、メンテナンス費用など)算出システム(Masuters Mouse)を構築、完成させました。

これにより、計画的メンテナンスによる建物の長寿命化、メンテナンス費用のローコスト化を計ることが可能になりました。我社では広島市の東京海上火災ビルでの導入を初め、関東地域で、中小ビルに特化して実績を重ねています。



建物のコンバージョン(用途変更)

現存建物長寿命化が求められる中で、建物の基本的な躯体構造を確保しながら既存建物の用途を変更し、有効活用を行うニーズが増加しています。

世田谷神経内科では、大学院として使用していた教育及び事務所建物を病院施設として再生させました。病院施設に用途変更をするためには厳しい法的条件がありましたが、我社が長年培ってきた病院建築技術を生かし、短期間でその実現を果たしました。計画に際し、最新医療施設による設備設置荷重の検討、及び効率的な動線の検討を行い、ハートビル法やバリアフリー法についても積極的に導入しました。このような事例としては、日本最大規模です。

戸田中央腎クリニックでは施工を担当し、駅前の物販店を病院として再生させました。当工事では、各法令を遵守し、外壁材は現状維持のまま、腎臓透析センターとしての内部施設を新設するとともに、同一建物として、隣接する商店と合わせて耐震補強を行いました。



世田谷神経内科

(平成18年竣工)

鉄骨造5階建



戸田中央腎クリニック

(平成19年竣工)

増岡組環境技術研究所(エコラボ)

当環境技術研究所では、78,000m²の広大なビオトープを整備し、当地で育っている動植物の適切な育成の為に環境整備を行っています。

このような経験は、将来の人間生活には欠かせない技術の一つに発展し、人の心身がより健康である為の環境創りの一助になるものと考えられます。同じく当研究所内では、間伐材の再利用法や屋上緑化技術、造園に関わる商品等の研究も推進しています。又、同研究所では地域との交流や環境学習の場として、同施設内に多数生息しているクロメダカ(絶滅危惧種)の小規模な攪乱を地域の子供たちと一緒に行う等、「メダカ交流会」を開催しています。



会社概要

株式会社増岡組	
創業	明治41年2月1日
会社設立	昭和23年に株式会社に改組
	資本金10,000,000円
営業種目	土木建築工事の設計施工、 不動産売買、斡旋管理
資本金	1,000,000,000円
建設業認可番号	国土交通大臣許可（特-19）第2218号
宅地建物取引業免許	国土交通大臣（9）第2602号
取引銀行	広島銀行 みずほ銀行 三菱UFJ信託銀行 三菱東京UFJ銀行 もみじ銀行

事業所一覽

東京本社／〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-8-2 鉄鋼ビル

呉本店／〒737-0051 広島県呉市中央1-6-28

広島本店／〒730-0045 広島県広島市中区鶴見町4-25

東京支店／〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-8-2 鉄鋼ビル

大阪支店／〒540-0041 大阪府大阪市中央区北浜3-2-23
信愛ビル

松江支店／〒690-0056 島根県松江市雑賀町221

福山支店／〒720-0071 広島県福山市東吉津町5-7

京都営業所／〒606-8357 京都府京都市左京区聖護院蓮華蔵町31
第二近建ビル

名古屋営業所／〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅5-17-5
長和ビル

東広島営業所／〒739-0014 広島県東広島市西条昭和町5-6

松山営業所／〒791-8042 愛媛県松山市南吉田町2798-29

益田営業所／〒698-0043 島根県益田市巾島町201-4

三次営業所／〒728-0014 広島県三次市十日市南5-9-21

黒瀬機材センター／〒739-2622 広島県東広島市黒瀬町乃美尾
366-1

関連会社

株式会社鉄鋼ビルディング
所在地／東京都千代田区丸の内1-8-2
代表取締役社長／増岡祥文
創立／昭和24年
主たる営業概要／不動産の賃貸、売買、仲介及び鑑定
土地の造成及び販売
観光事業、索道事業

増岡商事株式会社
所在地／東京都千代田区丸の内1-8-2
代表取締役社長／増岡聡一郎
創立／明治41年
主たる営業概要／不動産の所有、賃貸及び管理
損害保険及び生命保険の代理業

中国物産株式会社
所在地／広島県広島市中区鶴見町4-25
代表取締役社長／渡部洋文
創立／明治41年
主たる営業概要／コンクリート用骨材類一式の生産販売
機械器具の製造販売並びに修理

株式会社ビル管財
所在地／東京都千代田区丸の内1-8-2
代表取締役副社長／増岡祥文
創立／昭和52年
主たる営業概要／土地建物及び付帯設備の保守管理
土地建物及び付帯設備の営繕修理

株式会社増栄不動産
所在地／東京都千代田区丸の内1-8-2
代表取締役社長／増岡祥文
創立／昭和60年
主たる営業概要／不動産に関する一切の業務
損害保険代理業

ダック株式会社
所在地／東京都千代田区丸の内1-8-2
代表取締役社長／増岡聡一郎
創立／昭和62年
主たる営業概要／不動産の所有、売買、賃貸
損害保険代理業

広島バス株式会社
所在地／広島県広島市中区光南6-1-68
代表取締役社長／岡田督司
創立／昭和25年
主たる営業概要／旅客自動車運送業
自動車修理業
旅行幹旋業

ダックケーブル株式会社
所在地／広島県広島市中区鶴見町4-25
代表取締役会長／増岡聡一郎
創立／昭和60年
主たる営業概要／有線テレビジョン放送事業に関する
コンサルタント及び申請、設計、施工業務

鋼ビル観光株式会社
所在地／東京都千代田区丸の内1-8-2
代表取締役社長／増岡祥文
創立／昭和60年
主たる営業概要／ゴルフ場等スポーツ施設の管理、運営

株式会社増岡マテリアルズ
所在地／広島県広島市中区鶴見町4-25
代表取締役社長／増岡真一
創立／平成19年
主たる営業概要／セメント及び二次製品の販売及び代理業
鋼材・機械・器具並びに建築材料の輸入及び販売

株式会社増岡組リノベーション
所在地／東京都千代田区丸の内1-8-2
代表取締役社長／増岡真一
創立／平成19年
主たる営業概要／土木建築工事の請負業務
設計及び監理業務、ビルディングの維持管理

〔 写真資料協力 〕

相原謙次

岩崎紘隆

海上自衛隊岩国基地

海上自衛隊鹿屋航空基地

海上自衛隊佐伯基地分遣隊

株式会社鉄鋼ビルディング

呉市史文書課

立花秀夫

中国書店

社団法人広島ゴルフ倶楽部 鈴ヶ峰コース

広島市公文書館

株式会社みつま工房

多摩市教育委員会

（敬称略）